

太田市サイエンスアカデミー活動報告

太田市で令和 7 年度第 15 回太田市サイエンスアカデミーが開講され、8 月 22 日(金)に太田キャンパス・ものづくりイノベーションセンターにて、技術院が担当する「永久コマ」を実施しました。

参加児童は 52 名、参加職員 5 名、群馬大学の学生スタッフ 6 名で行いました。

当イベントは年ごとに異なるテーマを開催しており、今年は永久コマ(リードスイッチコマ)を作成しました。

永久コマの動作原理は一般的に用いられている直流モーターと同様のものであり、同時に直流モーターの構造を極限まで簡略化したものであるため、モーターはなぜ回るのかを受講生が理解しやすいようになっています。

今回は時間及び参加者の年齢的な制約から、基本的なパーツは事前に職員がある程度モジュール化しておき、受講生はそれを組み立てて調整する形で作業を実施しています。

この永久コマ作成実習の特徴としては、コマの重心の取り方やリード線の巻き方など作り方によって差が出る部分で完成度が変わってくることが挙げられます。

このため各々の試行錯誤や考察の入る余地があり、ただ組み上げて動作確認をするだけに留まらない実践的な体験学習が可能となっています。

参加した受講生たちからは、貴重な学びの時間を過ごすことができた等の喜びの声が寄せられ、また後日、太田市教育委員会教育長の江原様より太田市サイエンスアカデミーへの協力に対しての御礼状を頂きました。

受講生たちが太田市サイエンスアカデミーを通して得た貴重な知識や経験が、様々な場面で本人はもちろん大勢の人たちのために活かされていくことを願っています。

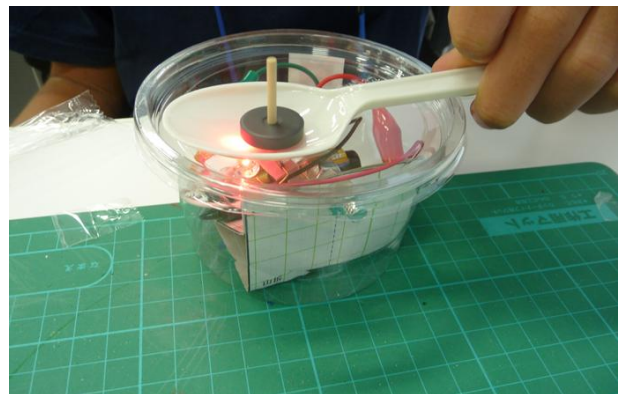
(文責) 荻野



太田市サイエンスアカデミーの様子・職員紹介



太田市サイエンスアカデミーの様子・授業風景



永久コマの動作確認

「第13回 北関東地区技術系職員安全管理ワークショップ」開催

2026年3月9日(月)、第13回北関東地区技術職員安全管理ワークショップがオンラインにて開催されました。本ワークショップは、大学等で安全管理業務に携わる技術職員が、日常業務で蓄積した情報の交換や討論を通して技術・知識を高め、職員間の交流を深めることを目的としています。埼玉大学・茨城大学・宇都宮大学・群馬大学の技術職員有志により発足し、13回目となる今回は群馬大学が幹事校を務めました。当日は学内外合わせて31名(埼玉大学10名、宇都宮大学8名、東海大学1名ほか)が参加し、活発な意見交換が行われました。

埼玉大学からは、学内で発生した薬品実験中の火災事故への対応について発表がありました。事故後の対応で見えてきた課題として、特に「薬品ラベルの消失」が挙げられました。高熱によりラベルが焼失・剥離し、中身が判別できない薬品瓶が散乱する中、適切な防護具の選定すら困難な状況下で片付け作業を行う不安が生々しく報告されました。また、通報時に消防署へ現場状況を正確に伝える難しさも浮き彫りとなりました。広大な敷地内では電話越

しでの場所特定が容易ではないため、対策として「外から判別しやすい建物番号の掲示」を後日実施したとの報告があり、非常時の誘導の重要性が共有されました。

宇都宮大学からは「ここ数年で起こったヒヤリハット事例」として、2つの事例発表がありました。装置のトラブル時、根拠のない経験則や主観的な判断で操作を続行し、事故寸前に至ったケースなどが紹介されました。これを受け、同大では「正しい知識の再習得」や「異常時対応マニュアルの作成」による再発防止策を講じたとのこと。

今回のワークショップで共有された事故対応やヒヤリハット事例は、当大学においても十分に起こりうる事態です。平時の管理と非常時のプロトコルの重要性を再認識するとともに、本ワークショップを通じて得た知見を基に安全管理のアップデートをしていく必要があると改めて強く実感する機会となりました。

(文責) 薊

技術職員室移転のお知らせ

2025年4月より、それまで7号館5Fにあった技術職員室が2号館4Fに移転しました。現在、この部屋には化学・計測分野と環境・安全分野の技術職員4名が常駐していますが、今後も増える予定です。常駐エリアの隣には、フリーアドレスの座席も併設しており、常駐以外の技術職員、更に教職員や学生等と技術院に関する業務相談で利用できます。技術職員が集約されることで、分野間の連携が取りやすくなり、様々な依頼に柔軟に対応できるようになります。気軽に相談できる場所にしていくので、お立ち寄りください。

(文責) 萩原



2号館4F 技術職員室